

安全衛生だより

発行
 公益財団法人
 いわき市教育文化事業団
 総括安全衛生管理者
 渡辺紀夫
 いわき市常磐藤原町手道
 50-1
 ☎0246 (43) 0391
 平成28年7月8日(金)
 第7号

平成28年度
 安全衛生
 スローガン

けんこうな 心と体 笑顔うむ
 福島県いわき市海浜自然の家 指導員 大和田 孝英
 日常の 小さな“気づき”が 事故防ぐ
 事務局調査係 補助員 草野 須加子

新年度 安全衛生 スローガン決定

平成28年3月17日の安全衛生委員会において、平成28年度の安全衛生スローガンが決定しました。応募総数63点から厳正な審査を経て選ばれた2点のスローガンは1年間の安全衛生の指針ともなるばかりでなく、工程管理のあり方や職場での気配りなど、いずれも安全衛生上、大切なことについて注意喚起しています。これらのスローガンを目立つ場所に掲出、実践することで、事故のない1年間にしましょう。



スローガンの作者であるいわき海浜自然の家の大和田孝英指導員（上）と、事務局調査係の草野須加子補助員（下）には、渡辺紀夫総括安全衛生管理者から記念品が手渡されました。

平成28年度始動！

平成28年4月21日、平成28年度第1回安全衛生委員会が開かれ、年間予定の確認をすることともに、各委員からの報告や懸案事項などについて協議しました。

今年度の安全衛生委員は次の通り。安全衛生上、気が付いた点は些細なことでも見過ごさず、最寄りの委員に報告、相談を。

安全衛生委員紹介

委員長（総括安全衛生管理者） 常務理事	渡辺紀夫
副委員長（安全管理者） 事務局次長	木幡成雄
委員（防火管理者） 事務局次長	中山雅弘
委員（衛生管理者） 海浜自然の家事務主任	荻哲郎
委員 生涯学習プラザ管理係長	駒木根栄一
委員 調査第一係研究員	千田一志
委員 海浜自然の家指導員	今野樹
委員 伝承郷学芸員	渡邊彩
庶務 事務局主事	尾股範彦

研修会報告

6月15日(水)新規採用者を対象に、安全衛生に関する研修を実施しました。



木幡副委員長から事業団の安全衛生管理体制や取り組みについて学びました。

日々の業務において安全についての知識・技能を十分に持たないと大きな労働災害につながりかねません。職員の皆様も安全に対する意識を強く持ち、業務に当たりましょう。

新年度にあたり

新年度の始まりとともに、安全への思いを新たにしていることと思います。安全衛生の取り組みに絶対はありません。どんなに注意していても事故が発生したり病気になることがあります。特に新しい環境や仕事に慣れてきたこの時期は、気の緩みによる労災事故が発生しやすくなります。気を引き締め直し、1年間事故のないように適度な緊張感を保ち続けましょう。

渡辺紀夫総括安全衛生管理者

熱中症を防ごう

7月は「熱中症予防強化月間」です。毎年、本格的な夏を迎える前から、熱中症による死亡災害が発生しています。気温が急に上昇した日など暑さからだが慣れていないとき、湿度が高く蒸し暑い日などは要注意です。7月の熱中症予防強化月間の前に熱中症予防対策を始めましょう。これからの時季、屋外作業では特に熱中症のリスクが高まりますが、建物の中で熱中症を発生して死亡するケースも多発しています。こまめに水分・塩分を補給し、体調がすぐれないと感じたときは、すぐに涼しい場所で休憩をとるようにしましょう。

熱中症の症状

熱中症とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、次のような様々な症状が現れます。

一度	めまい・失神 筋肉痛・筋肉の硬直 大量の発汗	重症度
二度	頭痛・気分の不快・吐き気 嘔吐・倦怠感・虚脱感	
三度	意識障害・痙攣・高体温 手足の運動障害	重症度



熱中症の予防・対策

- 1. 暑さを避ける
屋外では、日陰を選んで歩いたり、日傘をさしたり帽子をかぶったりしましょう。また、屋内での熱中症を防ぐため、扇風機やエアコンを適切（設定温度28度以下、湿度60%以下）に使ったり、すだれやカーテンで直射日光を防いだりして暑さを避けましょう。
- 2. 服装を工夫する
汗を吸収してくれる吸水性に優れた素材の服や下着を着ましょう。また、えり元はなるべく緩めて、熱気や汗が出ていきやすいように通気しましょう。
太陽光の下では熱を吸収して熱くなる黒色系の衣類は避けましょう。
- 3. こまめに水分を補給する
暑い日には、知らず知らずのうちに汗をかいているので、こまめに水分を補給することが大事です。たくさん汗をかいたときは、スポーツドリンクや塩飴などで水分とともに塩分も補給しましょう。なお、アルコールは尿の量を増やし体内の水分を排出してしまつたため、ビールなどで水分の補給はできません。
- 4. 急に暑くなる日に注意する
梅雨の合間に突然気温が上がった日など、体がまだ暑さに慣れていないときは熱中症が起こりやすくなります。暑さには徐々に慣れるように工夫しましょう。

□5. 暑さに備えた体づくりをする
日頃からウォーキングなどで、汗をかく習慣を身につけておくと、夏の暑さにも対抗しやすくなり、熱中症にもなりにくくなります。

□6. 個人の条件を考慮する
熱中症の発生には、その日の体調が影響します。前の晩に深酒をしたり、朝食を抜いたりした状態で暑い環境に行くのは避けましょう。風邪などで発熱している人や下痢などで脱水症状の人、小さい子どもや高齢者、肥満の人、心肺機能や腎機能が低下している人などは熱中症を起こしやすいので、暑い場所での運動や作業を考慮する必要があります。

□7. 集団活動ではお互いに配慮する
集団で活動する場合には、お互いの配慮や注意も必要です。暑い場所での作業や運動は、こまめに休憩したり、一人一人当たりの作業時間を短くしたりしましょう。活動の後には、涼しい環境で安静にするなど、体温を効果的に下げるように工夫しましょう。

熱中症と思ったら

すぐに風通しのいい日陰やクーラーなどが効いている室内など涼しい場所に移しましょう。
衣服を緩めたり、体に水をかけたり、まだぬれタオルをあてて扇いだりするなどして、体から熱を放散させ冷やしましょう。

たくさん汗をかいた場合は、冷たい水やスポーツドリンクや塩飴などにより、塩分を補給しましょう。
自分の力で水分の摂取ができない様子や、意識障害が見られる場合は、症状が重くなっていくので、すぐに病院に搬送しましょう。



活動予定

7月	夏の交通事故防止県民 総ぐるみ運動 熱中症予防強化月間
1日	国民安全の日
15日	国民安全週間
21日	第3回安全衛生委員会
8月	電気使用安全月間 食品衛生月間 施設パトロール（南部）
10日	
9月	
1日	防災の日
15日	第4回安全衛生委員会
15日	全国労働衛生週間準備 月間
21日	秋の全国交通安全運動